

PRESS RELEASE

■本資料は、福山市政記者クラブで配布しております。

2018年12月3日

報道関係各位

社会医療法人祥和会

医療機関の画像、検査結果、薬などの情報が 個人のスマートフォンで閲覧できるアプリ「NOBORI(ノボリ)」 脳神経センター大田記念病院にて、12月3日(月)から実証実験開始。 ～福山市「実証実験まるごと推進事業」の初の支援事業に～

福山市において医療・介護事業に取り組む社会医療法人祥和会(代表:理事長 大田泰正、本部:広島県福山市沖野上町三丁目)は、基幹施設である脳神経センター大田記念病院(代表:院長 郡山達男、所在地:広島県福山市沖野上町三丁目)において、医療情報を個人がスマートフォンで閲覧できるアプリ「NOBORI(ノボリ)」の実証実験を、2018年12月3日(月)より開始します。

「NOBORI」は、医療クラウドで高い国内シェアを誇る株式会社NOBORI(代表取締役社長:依田佳久、本社:東京都港区、以下NOBORI社)が制作したもので、本事業は、NOBORI社と社会医療法人祥和会の共同事業として、福山市の「実証実験まるごとサポート事業」(主管:福山市企画財政局企画政策課)の支援を受けることが11月30日付で決定しました。本件が初の支援事業となります。

取材可能です！

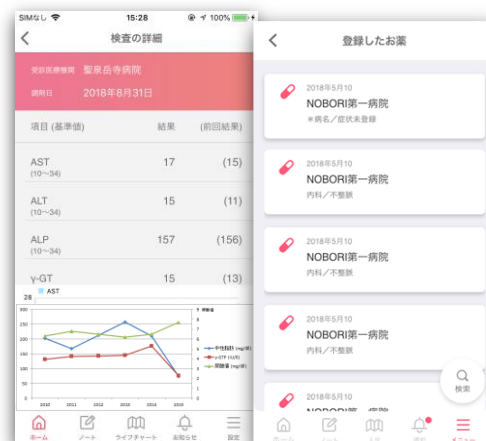
12月3日(月)から5日(水)、10:00～17:00
アプリ「NOBORI」を実際に体験できるブースを
脳神経センター大田記念病院・入院棟玄関に設置。
説明員が来院の皆さんへ、説明いたします。

1 ■「NOBORI」とは

提携医療機関から提供された画像や検査結果、薬などの医療情報をスマートフォンのアプリを通して患者本人が閲覧できるサービスです。

<https://nobori.me/> (NOBORI社による「NOBORI」サイト)
<https://www.shouwa.or.jp/nobori/> (当院における特設サイト)

※いずれも12月3日(月)にサイトをオープンする予定。



自身の健康状態の管理だけでなく、家族との情報共有もできます。救急時や災害時に、他の医療機関で診察を受ける場合にも、情報の共有ができ、より継続性のある医療サービスを受けることが可能となります。

また、通院や医師とのコミュニケーションに役立つ機能も備えています。

今回、「NOBORI」の最初の提携医療機関として、脳神経センター大田記念病院が手揚げをしました。今後、当院では「NOBORI」の導入を進めながら、コンテンツの改善に協力します。NOBORI社では、全国の病院へ普及をめざし、2019年春の本格稼働開始を目指します。

2 ■なぜ脳神経センター大田記念病院が「NOBORI」を導入するのか

超高齢化社会に突入したわが国では、社会保障費の増大と、生産年齢人口の減少という大きな課題に直面しています。特に、団塊世代に次ぐボリュームゾーンである団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年には、人口の約4割が高齢者となり、支え手となる生産年齢人口は、現在の6割まで減少することが予測されており、人々が社会保障だけに頼らず、できるだけ自分自身で健康を管理することが重要となります。医療機関も、病気を治すのみではなく、地域住民の「疾病予防」「健康増進」に寄与することが求められます。

NOBORI社は、画像クラウドに関する高い技術を持ち、医療クラウドPACSでは高い国内シェアを誇る企業^{※1}です。今回、NOBORI社は、**医療機関が保有する医療情報を患者と共有することで、人々の健康意識が向上し、健康寿命の延伸につながる**のではと考え、自社の技術を活用し、「NOBORI」アプリを制作しました。これは患者さんが自らの医療健康情報にアクセス、管理、共有することを可能にする仕組み(パーソナル・ヘルス・レコード[PHR])のひとつです。

このNOBORI社の開発理念に共感した当法人の大田泰正理事長が、脳神経センター大田記念病院を最初の実施フィールドとすることを快諾し、共同の実証実験事業として、「NOBORI」の導入を進めることになりました。

【※1】 矢野経済研究所 『2016年版医用画像システム(PACS)・関連機器市場の展望と戦略』(2017年1月発表)による。

■パーソナル・ヘルス・レコードとは?

PHR(パーソナル・ヘルス・レコード=生涯型電子カルテ)とは、複数の医療機関や薬局などに散らばる健康関連の情報を1カ所に集約する仕組みのこと。身長や体重、血液型、アレルギー・副作用歴といった基本情報のほか、医療機関の診療記録(画像、検査結果等)、薬局の投薬履歴、スポーツジムでの運動実績、自宅で測定した体重や血圧などの情報を生涯にわたって一元管理するものである。

2018年6月に政府が発表した「未来投資戦略2018」において、「次世代ヘルスケア・システムの構築プロジェクト」の一つとして、個人の健康や医療情報等に本人が自由にアクセスでき、それらの情報を用いて日常生活改善や健康増進につなげるための仕組みとして、PHRを推進していくことが述べられている。

医療機関の医療情報は、これまであまり積極的に患者さんに開示されているとはいえなかった。しかし、PHR推進の流れを受けて、国内のいくつかの医療機関において、医療情報の一部を患者さんと共有するPHRが導入され始めている。

3 ■ 「NOBORI」の新規性

① 提携医療機関の医療情報を患者が一元管理できる。

現在、国内の医療機関で使用されているPHRの多くは、一つの医療機関の情報を開示するものにとどまっております。一方、「NOBORI」は、提携医療機関の情報を、患者が一元的に管理することができます。すなわち、A病院、B病院の医療情報を、ひとつのアプリで閲覧することができます。

② 家族の情報を共有することができる。

ひとつのアプリで、患者さんご自身のみならず、認証された「ご家族」(親、子どもなど)の情報を共有することが可能です。これにより、遠方に住んでいる子供が、親の医療情報を閲覧したり、子供の医療情報を、夫婦で共有することが可能となります。

4 ■ 福山市「実証実験まるごとサポート事業」と今後の展開

本事業は、11月30日付で、福山市が実施する「実証実験まるごとサポート事業(以下、まるごと事業)」の支援を受けることが決定しました(詳細は、福山市企画財政局企画政策課が、11月30日に福山市政記者クラブで発信した『情報提供』をご参照ください)。

まるごと事業は、IoTやAIをはじめとした先端技術などを活用して、地域課題の解決や市民生活の質の向上などにつながる事業に対して、福山市がPRや実験場所の提供、官公庁手続の支援、規制の緩和などの支援を行うものです。

2018年3月に発表された統計では、広島県は、2016年の女性の「健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)」が全国で最も低いと報告されています。福山市においても、人々の健康寿命を延伸させることが、大きな課題といえます。

本事業は、「NOBORI」というPHRを通じて、人々の健康行動を促進することが狙いであり、福山市の地域課題とも合致しているといえます。

本事業をきっかけに、医療機関の医療情報だけでなく、健診情報や、ヘルスケアに関する様々な情報が集約されたPHRが構築でき、福山市の人々の健康増進に寄与することを目標としています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

社会医療法人祥和会
広報コミュニケーショングループ
担当 / 島津英昌
☎ 084-975-3909 [広報直通]
電子メール shimazu-hi@shouwa.or.jp